

令和7年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和8年2月10日（火）午後6時から午後7時39分まで
- 2 場 所 大野北公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、石井副市長、高野中央区長、片岡市長公室長、高林環境経済局長、河崎教育局長、萱野市民局長、兼杉中央区副区長
- 4 出席委員等 16人
- 5 傍聴者 7人
- 6 懇談会の要旨

概要	鹿沼公園のリニューアルについて
内容	<p>大野北地区まちづくり会議では「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」での検討経過について、市の関係部署からの説明を受け、市に対して、意見や要望を行ってきた。その意見等も踏まえ、令和4年度末に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン～鹿沼公園・公共施設再整備に向けて～」(以下「まちづくりビジョン」という。)が策定され、令和6年度末にはまちづくりビジョンに基づき複合施設の建設位置やコンセプト及びスケジュールなど、第1ステップの取組を中心とした基本計画である「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりプラン～鹿沼公園・複合施設整備基本計画～」(以下「まちづくりプラン」という。)が策定されたと承知している。</p> <p>これまでも大野北地区まちづくり会議やまちづくりを考える懇談会においては、担当部署から事業の進捗状況等報告を受け、地域の意見や要望を伝えてきた。今年度は特に、鹿沼公園のリニューアルについて、市における検討の進捗状況や具体的な計画等の説明を伺うとともに、今後、鹿沼公園がどのようにリニューアルされるのか懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度「大野北地区まちづくり会議報告書」において公共施設の複合化を提言した。 ・令和4年度、第2回まちづくり会議において、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」の進捗状況報告を受け、世代間交流の実現に向けた意見や、基本計画の策定に当たっては、大野北地区まちづくり会議の要望を反映して欲しい旨を伝えた。 ・令和5年度、第2回まちづくり会議において、まちづくりビジョンを基に現在の淵野辺駅南口周辺のまちづくりの進捗状況の報告を受け、地域の意見をどのように反映していくのか要望を伝えた。 ・令和6年度、第2回まちづくり会議において、複合施設の整備の方向性や機能等、現在の市立図書館機能を中心に確立・充実させる旨の説明を受け、複合化される他の施設の充実についても意見、要望を伝えた。 ・令和7年度、第3回まちづくり会議において、民間活力を前提とした事業手法や労働環境の変化に伴いスケジュールの見直しなどの説明を受け、複合施設整備後の跡地活用等の方向性である第2ステップの充実についても意見、要望を伝えた。

市の取組
状況等

大野北地区では、まちづくり会議やまちづくり懇談会で、淵野辺駅南口周辺には、様々な公共施設があり、活気あふれる地域活動が自主的かつ持続的に実施されているといった地域性や魅力を、次世代に引き継ぎ、地区としての発展を見据えたまちづくりが必要であるなどといった、多くの意見をいただいている。他にも市民検討会や有識者協議会においても、様々な議論を積み重ねてきた。

こうした経過を踏まえ、令和5年3月に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン」（以下「まちづくりビジョン」という。）を策定し、さらにその後の検討・調査の結果を踏まえ、第1ステップの取組を中心とした基本計画として、昨年3月に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりプラン（以下「まちづくりプラン」という。）」を策定した。

鹿沼公園リニューアルのコンセプトについて、まちづくりビジョンにおいて、「～集う、動く、遊ぶ、学ぶ、憩う～多彩な活動・多様な人々の結び目となる公園」と定めている。まちづくりプランでは、鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用して再整備を行うこととしており、複合施設を設置する「複合施設ゾーン」のほか、軟式野球場を廃止して芝生広場等を整備する「憩いと交流のゾーン」など6つのゾーンを設定し、それぞれ再整備の考え方を定めている。

原則としてまちづくりプランで定めたゾーニングの考え方に沿った整備を行うが、今後民間事業者からの提案を求める中で、その提案内容が各ゾーン又は公園全体の機能向上や魅力向上に資する場合には、各公園施設の規模や形状の変更、新たな公園施設の設置も可能としている。

これまで実施した公園利用者へのアンケートや市民検討会での議論において、鹿沼公園には、休憩できるスペースや多世代が交流できるような広場空間が不足しているとの声をいただいた。今回リニューアルをするに当たっては、広場空間を確保するため、開放的な芝生広場や、憩いやレクリエーション活動、交流、そして防災といった機能を兼ね備えた多目的広場を整備する。

新たに複合施設を公園内に設置することに当たっては、複合施設を公園の丘のように捉え、公園のシンボルであり全体を見渡せるものとし、魅力づくりに寄与するものとしたい。複合施設の屋上にも緑地や広場空間等を配置することで、良好な都市環境を保ち、公園との連続性や一体感に十分配慮した機能を確保する。

カフェや売店等の設置については、民間事業者が持つノウハウを十分に発揮し、利用者サービスの向上が図られるよう、民間事業者の創意工夫のある提案を募り、実現につなげていく。

運営については、鹿沼公園だけでなく、複合施設の管理・運営を可能な限り一体的に行うことで、効率化を図るとともに、複合施設と連携した横断的な事業の実施やサービスの提供など、公園単独では提供することが困難であった新たな価値を提供し、市民サービスの向上につなげていく。

昨年10月には、実施方針等を公表し、民間事業者との対話を行った。現在は令和9年3月の事業契約締結を目指し、事業者選定を進めている。

今後も事業の進捗に応じて、皆様に説明する機会を確保していきたいと考えている。

(石井副市長)

懇談内容	
地区の発言	<p>鹿沼公園の白鳥池について、土砂が溜まってきており、今後きれいに浚渫、浄化されるのか心配している。昨年、職場体験で来た中学生2人に、淵野辺駅を降りてどう感じたか尋ねたところ、緑が多いという感想があったことに驚いた。現在、池には土砂が溜まっているが、水生植物による吸収や微生物による分解等、泥や植物の自浄作用による浄化を考えてほしい。「潤水都市さがみはら」として、綺麗な水が流れる憩いの場を整備し、すばらしい公園を作っていただきたい。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園は整備から50年以上が経過しており、公園施設の老朽化や、樹木の巨木化及び老木化が進行している。また白鳥池も土砂の堆積や水質の汚れがあり、池として魅力が減少している状況である。鹿沼公園の魅力を高めるために、今回は複合施設と一体となって公園のリニューアルを行い、公園と複合施設を融合し一体性を高めることで、魅力ある地域のシンボルエリアにしていきたいと思っている。</p> <p>リニューアルのコンセプトは「～集う、動く、遊ぶ、学ぶ、憩う～多彩な活動・多様な人々の結び目となる公園」としており、6つのゾーンに分けている。白鳥池、築山及び樹林地は、公園の南側にある「池と緑のゾーン」にあたる。白鳥池の堆積した土砂の浚渫による水質改善や護岸の改修を行い、魅力ある水景施設としていきたいと思っている。具体的にどのようなかたちになるかは民間提案に期待していきたいが、淀んでしまっている箇所は、綺麗にしていきたい。</p> <p>憩いの場の設置については、現在は軟式野球場になっている場所を、芝生を生かした、誰もが入れるオープンスペースの広場である「憩いと交流のゾーン」として検討していきたいと考えている。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>鹿沼公園ではたくさん子どもたちがいつも遊んでいるが、リニューアルのための工事期間中は公園を利用することができるのか。また、公園が全面的に使えないという期間が発生するか伺いたい。</p>
市の発言	<p>工事については、公園全面で一気には実施するわけではなく部分的に実施していくため、使える場所、使えない場所はあるが、現段階でここから始まるというような具体的なことは言えず、事業設計等ができてからのお伝えになる。時期的には全面工事の期間となる部分もあるかと思うが、なるべく使える部分ができるよう、順次工事をしていきたいと考えている。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>鹿沼公園は、8月に交通公園で「大野北銀河まつり」を開催したり、3月末には「さくらまつり」を公園で開催するなど、イベントの会場となっている。今回のリニューアルで「憩いと交流のゾーン」のイベント活用について非常に期待している。</p> <p>商店会では音楽イベントの開催や、キッチンカーの出店等イベント実施について声が多く出ているが、「憩いと交流のゾーン」の活用方法について、どのようなかたちを想定しているか伺いたい。</p>
市の発言	<p>「憩いと交流のゾーン」については、休憩できるスペースや多世代が交流できる広場空間として、ピクニックなどの個人利用や地域のイベントなど、多機能な用途での活用を考えている。今までは野球場のため、野球専用の利用形態であったが、リニューアル後は専用の利用形態ではなく、なるべくオープンに多くの方に利用し</p>

	<p>ていただき、イベントでの利用や普段芝生広場で休憩するといった使い方を想定している。</p> <p>加えて、広場の一部に屋根の設置を検討している。屋根はシェルターのようなかたちで災害時の利用も想定されるため、要求水準書でも示し、民間事業者からの提案に期待していく。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>鹿沼公園は広域避難場所になっているが、鹿沼公園を防災公園にしたらどうか。防災を重視してもらい、防災機能の向上をしていただきたい。</p> <p>今回のリニューアルには3～4年程度かかるが、鹿沼公園は地域の広域避難場所として、災害時には1万4,700人を収容するようになっており、工事中に災害が発生した際に、これだけの被災者を収容できるかということを非常に心配している。</p> <p>また、公共施設は一時避難場所になることも多いため、鹿沼公園は広域避難場所及び一時避難場所の機能が整わないといけない。加えて、大野北地区の災害対策本部も設置されるため、多くの役割が集約されることとなるが、その役割をしっかりと果たせるか、安全・安心を担保できるか危惧をしている。</p> <p>まちづくりプランによると「憩いと交流のゾーン」では屋根が設置されることになっており、夏季の暑さ対策にもなり、安全・安心の向上になるため、良いと思う。屋根に加えて、柱の側面幕を張って部屋を作れるような、「防災あずまや」としての機能があると良いのではないかと考えている。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園は防災公園としてのリニューアルではないが、災害時に屋根がある場所の柱に幕を張って部屋を作ることができる等、防災機能を持たせている他市の事例は承知している。防災についても意識し、どのような機能を持てるか民間提案に期待していきたい。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>防災に関しては住民にとって、非常に重要なことである。市が所有する公園のため、防災については民間事業者ではなく行政が取り組むべきだと考える。民間事業者任せでは市民が納得できず、安全・安心が担保できるか不安である。</p>
市の発言	<p>防災については大切な視点だと思っており、いただいたご意見のとおり、防災に関しては行政が地域住民の意見を聞きながら取り組んでいく部分である。そのため、事業者には仕様を示す要求水準書の中には、防災の視点を位置付けることとしている。</p> <p>危機管理局が中心となり、今後の防災対策を検討する上での根拠となる資料を算出する「相模原市防災アセスメント調査」(以下「防災アセスメント」という。)を実施している。防災アセスメントでは、市域に大きな影響を与える可能性のある地震の規模等についてシミュレーションを行い、それぞれの地域における被災者の人数等を調査している。防災アセスメントに基づいて、鹿沼公園にどのような防災機能を用意するかを市が考え、リニューアルに盛り込んでいく。 (石井副市長)</p> <p>地域防災計画及び大野北地区防災計画では、大野北まちづくりセンターは地区連合自主防災組織の本部及び市現地対策班として、大野北公民館は風水害時避難場所として位置付けている。また、さがみはら国際交流ラウンジには、災害時の外国人の相談窓口機能もある。検討している複合施設も、安全・安心のために同様の機能を確保したいと考えている。 (太田市長公室政策部参事(淵野辺駅南口周辺まちづくり担当))</p>

地区の発言	<p>検討委員会で要望していた防災の関係で、災害時の水の確保や排水について、浄化槽を設置できれば防災の拠点として力を発揮できると思う。また、電気の確保についてもどのように考えているか伺いたい。</p>
市の発言	<p>災害はいつ起こるか分からないため、防災の視点は非常に重要なことである。現在、民間事業者に対して、市としてこのような仕様でリニューアルをしていただきたいという要求水準書を示している。その中では、平常時は多目的広場を公園利用者が使える憩いの場として提供し、災害時は天候に左右されない、全天候型の施設として整備していきたいと示している。災害時に一時的に避難した人が雨風をしのぐための屋根については、高さを4 m以上、直径1.5 m程度とする等の仕様を示している。</p> <p>実際に工事を行う際にも災害に配慮したものとなるよう取組を進めていく。</p> <p>現段階では文章で仕様を出しているだけだが、民間事業者からの提案後にパース絵等を示して、皆様との対話の場が必要であると考えている。(片岡市長公室長)</p>
地区の発言	<p>適宜、市と地域でコミュニケーションを図りながら進めていきたい。</p>
地区の発言	<p>高齢者向け施設は、以前は淵野辺公園のテニスコート近くに、休憩できたり風呂に入れたりする施設があったと思うが、現在は緑区大島の「老人福祉センター 湊松園」のみとなっている。淵野辺公園にあったような施設を、高齢者の憩いの場として鹿沼公園に設置してほしい。</p>
市の発言	<p>6つのゾーンの中で、「多世代健康スポーツゾーン」として、子どもから高齢者の方まで多世代の方の利用を想定したゾーンを設定している。他にも「複合施設ゾーン」については、民間事業者の提案後に、施設が多世代向けかどうかの意見が出てくると思う。民間事業者の提案を審査した上で、具体的な施設の内容や中身についても、意見をいただく場を設けたいと思っている。(片岡市長公室長)</p>
地区の発言	<p>「遊びのゾーン」の遊具は、どのようなものを設置するか決まっているか。</p>
市の発言	<p>鹿沼公園の遊具は老朽化しており、時代に沿った遊具に転換していく必要がある。現在、障害のある方も健常者の方と一緒に遊べるインクルーシブ遊具などの設置を中心に考えている。他にも健康遊具等、様々な年齢層の方が利用できる遊具の設置を検討している。(中村公園課長)</p>
地区の発言	<p>鹿沼公園の交通公園は市内唯一である。交通公園を活用するために、どのようなリニューアルをするのか。</p> <p>また、鹿沼公園のリニューアルに当たり、公園周囲の交通状況についてどのように把握しているのか。公園の周囲には非常に危険な箇所が多いため、どのように整備するのか伺いたい。</p>
市の発言	<p>交通公園についても、施設が老朽化している状態であるが、リニューアル後は自転車専用レーンを交通公園内に取り入れることなどを考えている。</p> <p>また、公園には駐車場設置予定もあるが、公園周囲の交通状況も踏まえた駐車場の入口の調整等は、リニューアルの計画ができてから警察と相談、協議していく。(中村公園課長)</p>
地区の発言	<p>この地域では自転車で移動する人数がかなり多いため、複合施設に自転車や車で来る方が増えるのではないかと思う。淵野辺駅南口のまちづくりと一体的に工事をして多くの自転車を収容できる場所を整備するビジョン等はあるか。また、想定される駐車台数を伺いたい。</p>

<p>市の発言</p>	<p>「駐車場ゾーン」について、駐車可能台数を最低140台分確保することとしている。</p> <p>今後の予定としては、令和12年に複合施設開設、令和15年に公園全面供用となっており、淵野辺のまちづくりにおいて、淵野辺駅前の駐車場及び駐輪場の再整備の方針を第2ステップとして位置付けている。供用開始後、公園利用者の駐車場は「駐車場ゾーン」で対応することになる。</p> <p>一方で、淵野辺駅南口に自転車でアクセスする方は多くなっており、最近はレンタサイクルを利用する方も増え、市民の交通手段として重要である。例えば、駅前では放置自転車の問題があるため、放置自転車禁止区域等として指定することや、駐車場及び駐輪場の確保については、利用者の目線に立った整備をしていくことなどを考えている。</p> <p style="text-align: right;">(片岡市長公室長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>PFIについて、各ゾーンで実施するのか、一括で実施するのか伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>工事は段階的に行うこととなるが、発注は公園全体一括で取り扱う。ただし、1社のみが全部改修を実施するわけではない。</p> <p style="text-align: right;">(高林環境経済局長)</p> <p>補足で説明するが、どこか1社が工事全体を実施することは、PFIではあまりない。工事に必要な設計や建設、施設運営等を、それぞれ専門の民間事業者が担当して、工事を行うことが多い。PFIでは、複数の民間事業者がSPCという一つの会社を組成し、その会社が設計、建設及び施設運営等を行うイメージになる。</p> <p style="text-align: right;">(片岡市長公室長)</p>
<p>地区の感想等</p>	<p>現在の図書館は、座れる場所や本を読める場所が限られており、高齢者がゆっくり過ごすことができる場所ではなくなっているため、高齢者も過ごしやすい施設にしてほしい。</p> <p>交通公園について、各地の交通の縮図として、リニューアル後も子どもが交通について学べる公園となるようにしてほしい。</p> <p>保存機関車(D52)は鹿沼公園が誇る機関車だと思う。可能であれば保存機関車(D52)を保護する屋根を造る等、今後も保存してほしい。</p> <p>「憩いと交流のゾーン」に設置する屋根については、どこの公園にもないすばらしい設計の屋根を設置していただきたい。</p>
<p>市長の感想等</p>	<p>本日は貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>白鳥池については浚渫が大事だと思っており、公園の象徴的な存在のため、意見を聞きながら作っていききたい。</p> <p>工事中の利用に関して、6つのゾーンで一気に工事を進めるということではないと思うので、できる限り子どもたちやシニア世代の方が利用し続けることができるように工事を進め、いただいた意見を反映していききたいと思う。</p> <p>「憩いと交流のゾーン」について、防災の観点で意見をいただいた。いつどのような災害が起こるか分からないため、防災の視点を取り入れて、取り組んでいく。</p> <p>SPCについて、各分野に精通している民間事業者が何社か集まって複合的な会社を作り、リニューアルにチャレンジしていくことになると思われる。</p> <p>これまで「子育てするなら相模原」「第2第3の人生を楽しむなら相模原」と</p>

言ってきたが、シニア世代向けの施策が難しかった。来年度予算案には移動手段のパッケージに関しても提案している。「老人福祉センター溪松園」の話もあったが、若松には「老人福祉センター若竹園」という施設もあるため、そちらもご利用いただきたい。

公園に設置する遊具について、子ども向けのインクルーシブ遊具を設置するとともに、シニア世代向けの健康遊具の設置も考えている。

交通公園に関しては、全国でも誇れる交通公園にしていきたいと思っている。特に4月から自転車への交通反則通告制度（青切符制度）が始まるので、この制度を含め子どもたちの命を交通事故から守るために、取り組んでいきたい。

鹿沼公園周辺の駐車場及び駐輪場について、第1ステップでは6つのゾーンの中に、140台以上の駐車場の設置を考えているが、駐輪場の駐輪可能台数を議論し、示していかなければと思う。また、第2ステップとして、淵野辺駅前の駐輪場の整備についても、改めてご意見をいただき、方向性を決めていきたい。

現在、池の周りは桜の木の根上がりのため歩きにくいという声をいただいている。しっかりと対応し、鹿沼公園は憩いの場となるようにしていきたい。

皆様からのご意見は気づきがたくさんある。今後も将来に誇れるまちづくりのため、ご協力いただきたい。

(本村市長)